



vol.1 傾向言えロー



大昔、まだ僕が「名手として」ノーガキをタシても許されていた「らしい」時代に、とある月刊誌で「今年のダンゴの傾向」なる特集があった。

僕のほかは名だたるスターばかりで、同時期に連載を持つ出演者総出のお祭りといったところ。二十歳そこそこの僕は最初の打診で困惑したが、若気の至りってうかなんていうか、先輩方がマジメに今年の傾向を説いてる中、ぶちかました。

「傾向なんか、無い。」

いや勿論、「有る」よね。エサなんてのは、ヘラの活性も仕掛けも何もかも、様々な要因が絡み合った結果であるならば、実はそれはその年のどこの釣場でも同じような要因があって、故に結果としてエサにも傾向が生まれてくるんだよ、という。なので、そういう思考ナシにエサのレシピに着目する慣習は如何？って話をしたかった。

指先が無意識に「いつもの」タッチを追い求めてしまう心理は否定しないけど、実際そういう話じゃ初心者についてはこれないよねっていう。けど、うまく伝わったかどうかは謎。電子書籍化してある筈なんだけど、ケチってOCR処理をしていないので見つけれない（笑）。

なので確かめようもないが、実際には、当時はまだ異端でしかなかった短ハリスを用いると、およそ考えつかないようなアマイタッチのダンゴがチョーチンでも持ってしまいますよ、セッティング抜きにしてエサのタッチは語れませんよって話に終始したと思う。だから、セッティングの目新しさに注目が集まり、僕の真意は伝わらなかったと思う。「生意気なバカ」で終わり（笑）。

当時の僕が気づいていたのかどうかちょっと記憶が曖昧だが、実はハリスが短すぎてもエサは持たない。その辺の話はまあ、いつか書くとして、当時すでにエサメーカーのモニターになっていた筈の僕が、あまりにもメーカーに気を使わない記事だったと思えるのが笑える。



最新のエサだけで「ブレンド」を組み立てるとか、せめて一品だけでも最新のエサを加えるとか、ってのが無かったように思う。

僕はあまり煩く言われた記憶もないんだけど、イマドキのモニターさん達は律儀っていうか凄いなって思う。たぶん、支給品だけじゃ足りないんだよね。末端クラスだと。自腹してまで縛られていながら宣伝もするという。上に上がりたい一心ならそれを止めるつもりもないし、僕もそんな時期を過ごした記憶があるだけに分かるんだけど、一般ユーザを惑わせる活動には疑問を感じるかな。

ヘラブナ釣りは難しいものだと思う。

それをどうシンプルに捉え直すかってことを「簡単に釣る」と表現するなら共感するが、思考停止は共感できない。なにも毎投考えるとは言わない。僕はそんなの無理。だから、竿を握ってウキとにらめっこして我を忘れる寸前まで、徹底的に考える。その結果イメージ通りの動きになれば、あとは誤差の範囲。それが凡人の理想。

シンプルに捉え直す作業は消去法と言い換えることが出来る。だからつまり、知識がないところからの消去法なんて不可能だ。一見無駄な情報も何もかも詰め込んだビッグデータから、きちんと引き出しを引っ張り出すことが出来るか否か。そういう問題だと思う。必要な知識だけ詰め込んでたまたま結果が出ていても、先はない。

2014.6.25 江成 公隆